

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2024年8月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2024年8月8日～8月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 139社
- 回収率 69.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の8月の状況を見ると業況DIは、前月より5.7ポイント改善の▲18.7となった。

2017年9月以来84ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲22.3、当月と比べ3.6ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

| | 2024年 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 先行き見通し 2024年9月～ 2024年11月 |
|------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------------------------|
| 業況 | ▲22.0 | ▲22.3 | ▲22.2 | ▲35.3 | ▲24.4 | ▲18.7 | ▲22.3 |
| 売上 | ▲13.3 | ▲18.0 | ▲25.7 | ▲19.6 | ▲17.8 | ▲12.3 | ▲17.2 |
| 採算 | ▲24.5 | ▲18.0 | ▲25.7 | ▲35.4 | ▲27.4 | ▲24.5 | ▲23.7 |
| 仕入単価 | ▲63.8 | ▲64.7 | ▲65.0 | ▲64.6 | ▲61.5 | ▲57.6 | ▲55.4 |
| 販売単価 | 25.2 | 35.2 | 26.4 | 36.0 | 35.6 | 31.0 | 23.8 |
| 従業員 | 37.0 | 38.9 | 35.0 | 35.3 | 31.8 | 31.7 | 36.6 |
| 資金繰り | ▲11.0 | ▲12.3 | ▲12.2 | ▲17.3 | ▲11.9 | ▲13.0 | ▲14.4 |

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

| | 2024年 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 先行き見通し 2024年9月～ 2024年11月 |
|------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------------------------|
| 建設 | ▲11.6 | ▲33.3 | ▲25.8 | ▲50.0 | ▲35.5 | ▲35.5 | ▲32.3 |
| 製造 | ▲25.0 | ▲27.8 | ▲25.7 | ▲42.4 | ▲29.4 | ▲22.8 | ▲22.8 |
| 卸売 | ▲7.7 | ▲3.3 | ▲3.3 | ▲17.3 | ▲20.7 | 3.2 | ▲3.3 |
| 小売 | ▲30.0 | ▲25.0 | ▲30.0 | ▲38.1 | ▲20.0 | ▲21.0 | ▲31.6 |
| サービス | ▲39.1 | ▲21.7 | ▲29.2 | ▲27.3 | ▲9.6 | ▲17.4 | ▲26.1 |

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

| | |
|--------------|--|
| <p>建設業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・工事資機材の価格・下請施工費の高騰により利益を圧迫している状況。（総合工事） ・新築戸建て需要は、住宅ローン金利の上昇や人口減少・高齢化の進行によりさらに厳しさを増すことが予想される。秋には新しい首相が誕生し衆議院解散も取り沙汰されている。新政権がプライマリーバランス重視から積極財政重視へと転換し、景気の活性化につながることを期待している。（設備・その他） ・人口減少・世帯数減少・建築価格上昇・労賃上昇など新築住宅市場に逆風が吹いているが、環境の変化に対応しつつ成長するためには当社住宅の耐震性・断熱性の高さを多くのお客様に関心を持ってもらい、ひいては選択してもらうことが必要であると認識している。PR 施策が今後の展開のキーポイントとなるが、まずは、HP のリニューアルによる広告宣伝の充実を図っているところである。（建築業） |
| <p>製造業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・農産物の収穫が本格的になった。収穫量は平年並みであるが、今後の天候により左右される。10月からは最低賃金の値上げも控えているので、悩みがまた増える。（食料品） ・印刷の主材料である、用紙・PS版・インク等価格改定(値上げ)を通達され対応に苦慮している。（印刷・出版） ・ここに来て主材料の値上げが相次いでおり、印刷需要も減少傾向にある。（印刷・出版） ・ここ最近の生活必需品やエネルギーコストの値上げによりホームユースの需要がかなり落ち込んでいる。（家具・木材） ・当面はないが、原材料及び消耗品の値上げが続き消費者マインドが冷え込んでいくことが不安。（金属窯業他） ・工事件数及び量が、かなり減少している。（金属窯業他） |
| <p>卸売業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・従来比較し商品の価値は上昇せず、価格のみ上昇しているのと同じ売上は難しくなっている。（繊維・衣服等） ・小売店の業況低調となり弊社からの納品も減少している。天然水産物の漁獲状況が悪く日々の売上に繋がらない。水温上昇など環境変化がここ数年大きく売上も減少している。弊社の仕入先も 2024 年問題・業務の効率化のため旭川から道北地区への販売をしない仕入先が増えてきた。旭川でもこの傾向が出てきており、今後は道北エリア全体に進んでいくと思われる。（飲食料品） ・前期は売上減・物価上昇等もあり赤字決算となったが、今期は現在までで入札の受注(契約額)も伸びてきており、前期に比べ業績も好転してきている。（機械鋼材） ・当月の業況については、閑散期に入ったことや営業日数が少ないことから、売上は前年と比較し微減に推移。今後は年後半にかけて持ち直すものと思われるも、年全体を通した場合、前年よりもやや下回る数字に着地するものとみている。（その他） ・灯油の仕入値は小幅に上昇しているが、販売価格は変わらず。当面は現状のまましばらく続くと思われる。（その他） |
| <p>小売業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・8月に入りサマーセールも終わりに近づき、シーズン(秋物)への切替時期となるが、毎日気温が30℃超えて夏物(セールプライス)の動きがなく、売上が見込めない。（衣服身回品） ・9月中市内に競合店の出店があり影響が大きい。加えて値上げが鈍化、単価上昇による増収が見込めない。（食料品） ・賃金や販売コストの上昇が販売価格に転嫁できず、採算性が低下。政府からの激変緩和補助金の今後の推移が不透明な為、仕入れコストの変動が読みにくい。（その他） ・販売単価上昇により売上は伸びているが、人件費の高騰が利益に大きく影響を与えている。今後も人材の採用・設備投資を続ける上で、今まで以上に利益を出すことが求められる。（自動車） |
| <p>サービス業</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・人員不足でサービス低下による顧客満足度が低下。また、仕入高による販売価格転嫁ができていない。（理美容・クリーニング） ・昨年は、コロナ明けやインターハイがあり売上は増加したが今年は物価高の影響もあるのか客数や単価も減少している。（ホテル・旅館） ・公共工事の売上減少分を営業努力により、民間工事でカバーしている。（その他） ・人手不足で営業時間の短縮をしてから店内対応がない出前も増え、観光客も増えているが、一定時間に集中してほしい客数・組数が見込めないのが厳しい。（飲食） ・足許の業況は好転してきているとはいえ、コロナ前期には至っていない。また、費用減で収支改善に見えるが本来維持更新していくべき設備投資を凍結している要因であり、あるべき姿とは言えない。資金繰り状況は好転せず、返済負担が大きく非常に重い経営課題である。（運送） |

旭川市の産業別概況

| 産業 | 概況 |
|-------|---|
| 建設業 | <p>売上 DI25.8 ポイント改善、採算 DI6.5 ポイント改善、仕入単価 DI12.9 ポイント改善、販売単価 DI9.7 ポイント悪化、資金 DI3.2 ポイント悪化、従業員 DI6.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は横ばいとなった。業種別では、設備・その他 10 ポイント悪化、総合工事横ばい、建築業 14 ポイント改善となった。新規顧客確保が遅れている為、売上が伸び悩んでいるとの声も寄せられている。</p> |
| 製造業 | <p>売上 DI18.1 ポイント改善、採算 DI12.4 ポイント改善、仕入単価 DI4.7 ポイント改善、販売単価 DI6.5 ポイント悪化、資金 DI3.2 ポイント改善、従業員 DI6.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 6.6 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、印刷・出版 7 ポイント悪化、食料品 11 ポイント、家具・木材 6 ポイント、金属窯業他 12 ポイント改善となった。納入先のトラブル・減産により先行不透明。古い機械のため、突然の故障が生産に影響するとの声も寄せられている。</p> |
| 卸売業 | <p>売上 DI3.7 ポイント改善、採算 DI3.9 ポイント改善、仕入単価 DI2.9 ポイント悪化、販売単価 DI3.9 ポイント改善、資金 DI6.2 ポイント悪化、従業員 DI1.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 23.9 ポイント改善となった。業種別では、繊維・衣服等 29 ポイント、食料品 17 ポイント、機械鋼材 14 ポイント、その他 41 ポイント改善となった。業務システムと連携して昔から使っているドットプリンターをレーザープリンターに切り替えるべく業務システムの刷新に取り組んでいるとの声も寄せられている。</p> |
| 小売業 | <p>売上 DI6.3 ポイント悪化、採算 DI1.9 ポイント悪化、仕入単価 DI2.7 ポイント改善、販売単価 DI1.9 ポイント改善、資金 DI0.8 ポイント悪化、従業員 DI2.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 1.0 ポイント悪化となった。業種別では、自動車 20 ポイント改善、衣料品、食料品横ばい、その他 19 ポイント悪化となった。少しずつ観光客が戻ってきており、記念品の引合いも増えてきているとの声も寄せられている。</p> |
| サービス業 | <p>売上 DI32.9 ポイント悪化、採算 DI17.1 ポイント悪化、仕入単価 DI1.5 ポイント改善、販売単価 DI12.8 ポイント悪化、資金 DI2.1 ポイント改善、従業員 DI14.1 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 7.8 ポイント悪化となった。業種別では、その他 15 ポイント、飲食 50 ポイント改善、運送横ばい、理美容・クリーニング 100 ポイント、ホテル・旅館 33 ポイント、整備業 20 ポイント悪化となった。公共工事の売上減少分を営業努力により、民間工事でカバーしているとの声も寄せられている。</p> |